



『七夕』を通して

園長 野田 久美子

梅雨の晴れ間に夏の日差しが照りつけるようになりました。夏咲きの花や野菜が少しずつ大きくなり、「だんだん大きくなってきたね」「ほら、緑の実がなってる」と、世話をしながら生長を楽しみにしている子どもたちです。

各学年では、学年の発達に応じた七夕製作に取り組んでいます。年少組は、タンポに好きな色の絵の具を付けてポンポンと押し、かき氷を作りました。「これはイチゴ、こっちはメロンなの」と、絵の具をいろいろな味に見立てています。年中組は、色紙つなぎをしました。「見て、こんなに長くなった」と、つなげた飾りを得意そうに見せてくれます。年長組は、ちょうちん飾りを作りました。工程がたくさんあって難しい製作を丁寧に仕上げ、できた満足感を味わっています。ちょうちん飾りには、「心を明るく照らしてくれますように…」という意味が込められているそうです。七夕は、季節の伝統行事について知りみんなでお祝いするとともに、製作を通して遊びや生活に必要な技能の習得をするというねらいもあります。子どもたちが作った笹飾りは持ち帰りますのでご家庭で飾ってください。短冊に書いたみんなの願いが叶いますように…。

七夕には、もう一つ「星や宇宙に関心をもつ」というねらいがあります。年に一度だけ、織姫と彦星が天の川を渡って会うことができるという七夕の話が、星や宇宙に関心をもつきっかけになります。この機会に、親子で夜空の星を見る、宇宙の絵本や図鑑を見ながら話をするなど、宇宙のかなたの未知なる世界に思いを巡らせてみるのはいかがでしょう。



「ポンポンポン 楽しい!」(年少組)



『七夕』のペープサート(年中組)



「ちょうちんを作ろう」(年長組)